

図書館カレンダー

■ は休館日です。
■ は開館時間短縮です。

7 月							8 月							9 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	④							1
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
29	30	31					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
														30						

10 月							11 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	

夏季休暇中の開館について

期 間 : 7月30日(月)～9月18日(火)
 開館時間 : 9:00～16:00
 休館日 : 土曜日、日曜日、8月11日(土)～8月20日(月)までの期間
 8月4日(土)は豊田図書館のみ開館します。(9:00～12:00)
 8月10日(金)は閉館の予定でしたが、集中講義のため全館とも開館します。

夏季長期貸出期間について

- ・開架図書
7月16日(月)～9月11日(火)の貸出 → 返却日は9月25日(火)
 - ・閉架図書(院生・非常勤講師のみ該当)
6月29日(土)～8月24日(金)の貸出 → 返却日は9月25日(火)
- ※学外者の貸出期間は通常通りです。

新着図書セレクト

041/N 21	『環境と文化』(長崎大学文化環境研究会編 九州大学出版会) 第1部 文化環境の原理的考察 第2部 臨海域の文化環境 第3部 アジアの文化環境	TL
146.8/Ko 65	『心理療法入門』(古宮 昇著 創元社) 第1部 心理療法の基礎 第2部 理論 第3部 技法と実践	LSC
164.036/B 64	『世界神話大事典』(イヴ・ボンヌフォア編 大修館書店) 世界各地の神話を網羅・探求した神話事典。地域別・時代順に配列し、700余点の写真・図版を活用し解説。(参考図書)	LSC
188.74/A 33	『なぜ生きる』(明橋 大二、伊藤 健太郎著 1万年堂出版)	LSC
215.5/Sh 69	『新修名古屋市史 第9巻(民俗編)』(新修名古屋市史編集委員会編 名古屋市)	NL
234.074/N 15	『独ソ戦とホロコースト』(永岑 三千輝著 日本経済評論社) ホロコーストを生み出したのは「普通のドイツ人」なのか。ゴールドハーゲンの論説に対し、第三帝国文書を詳細に検討しながら反証する。	LSC
253.03/W 12	『紫煙と帝国』(和田 光弘著 名古屋大学出版会)	TL
304/Ta 84	『田中康夫主義』(田中 康夫著 ダイヤモンド社)	LSC
311.3/H 81	『ナショナリズムの歴史と現在』(E. J. ホブズボーム著 大月書店) ナショナリズムはいかなる歴史的・思想的な背景のもとで生まれたのか? それは国民国家の形成や民族解放運動の展開にどのような役割を演じたのか? ボーダーレスの時代といわれる21世紀におけるナショナリズムの命運は?	LSC
316.1/F 71	『現代人権論』(深田 三徳著 弘文堂)	LL
319.105/Ki 57	『日本がアメリカを救す日』(岸田 秀著 毎日新聞社) 「日本はアメリカの子分」それをはっきり認めれば、すべてがすっきり見えてくる。	LSC
319.8/G 82	『検証「核抑止論」』(ロバート・D. グリーン著 高文研) かつて自らも海軍中佐として英国の核戦略にたずさわった経験を持つ平和運動家の著わした核問題の入門書。	LL
324/I 89	『伊藤真の民法入門』(伊藤 真著 日本評論社)	TL
336.83/Te 25	『情報の世紀』(帝国データバンク百年史編集室編 帝国データバンク)	NL
361.45/O 73	『日本人の「国際化」感覚』(大崎 正瑠著 三一書房) 外国語を学ぶ人にもヒントがいっぱい。外国の「異文化」と出会うためのコミュニケーションの方法とコツを平易に語る。	TL
367.1/Ta 26	『だから、女は「男」をあてにしない』(田嶋 陽子著 講談社)	LSC
367.3/Sa 25	『家族の間をさぐる』(斎藤 学著 小学館) 幼児虐待、家庭内暴力、ドメスティック・バイオレンスなどの温床となった健全家族に隠された危うさとは…。	TL
368.71/N 93	『十七歳が心をひらくとき』(能重 真作著 新日本出版社)	LSC
369.27/Ma 85	『歴史と文化に見る身体障害者』(松尾 智著 明石書店) 第1章 国家による扶養義務制度 第2章 社会の中での身体障害者の位置づけ 第3章 リハビリテーションの概念のルーツを探る 第4章 身体障害者のセクシュアリティ 第5章 医療、福祉領域で必要な専門知識以外の学問的知識と視点。	TL

372.1/W 12	『どうする学力低下』(和田 秀樹、寺脇 研著 PHP研究所)	TL
379.91/A 71	『日本人のしつけ』(有地 亨著 法律文化社) あなたの家庭に必要な“しつけ”は？「しつけ喪失の時代」といわれる現代、明治以降のしつけの変容を具体的に整理・検討し、その見直しと新たな創設を考える。	TL
489.9/Su 49	『霊長類生態学』(杉山 幸丸編著 京都大学学術出版会) 食う——食われる、エネルギー収支、どうやって子孫を残すか…サルたちはさまざまな生物的・非生物的環境とどのように関わりながら暮らしているのだろうか。どんな複雑な社会も自然環境と無縁ではない。“社会”から“生態”へ——サル学の新たな展開。	TL
490.15/H 67	『生命・環境と現代社会』(平野 武著 晃洋書房)	TL
491.371/A 62	『脳とニューロンの科学』(荒井 康允著 裳華房)	TL
498.3/Y 19	『心身一如の健康観』(山田 幸男著 文芸社) 身体の言い分を聞き、自然の道に気づき、元気に充実して生きるための知恵が身につく本。	TL
498.6/F 64	『「いのち」の近代史』(藤野 豊著 かもがわ出版) 「病」ゆえ国家の犠牲となった人々の記録。	LSC
547.483/N 71	『インターネット・Eメール入門』(NEC・Biglobe 監修 日本文芸社)	LSC
616.2/Sa 47	『米に生きる人々』(桜井 由躬雄著 集英社) 稲作は人々の慈愛の中に生まれ、数十億の人々に恵みをもたらす。米は環境ごとにその姿を変え、人々の味覚にこたえる。芳醇で流麗な米の讃歌。	TL
674.6/Y 81	『メディアと広告』(読売新聞社広告局編 読売新聞社)	LSC
780.1/Tb 62	『スポーツ倫理を問う』(友添 秀則、近藤 良享共著 大修館書店)	TL
783.7/E 57	『左腕の誇り』(江夏 豊著 草思社) 不世出の天才左腕が、誤解と曲折に満ちた野球人生と知られざる球界の真相を語りつくす。	LSC
816.5/I 56	『小論文の書き方』(猪瀬 直樹著 文藝春秋) 大宅賞作家が自筆のコラムを題材に開陳した小論文作成の極意。	LSC
913.6/E 44	『ウエハースの椅子』(江国 香織著 角川春樹事務所)	LSC
913.6/H 55	『片想い』(東野 圭吾著 文藝春秋)	LSC
913.6/Mi 73	『沙中の回廊(上・下)』(宮城谷 昌光 朝日新聞社) 春秋時代、晋の名君重耳に見出された士会が沙中を疾駆する。春秋時代最後の傑人士会の生涯を描く。名作『重耳』に連なる中国歴史巨篇。	TL&LSC
913.6/Sa 85	『血脈(上・中・下)』(佐藤 愛子著 文藝春秋) 生きようとする情熱ゆえに欲望と情念にひきずられる一族、佐藤家の人々の凄絶な生の姿を描く。第48回菊池寛賞受賞作。	TL&LSC
913.6/Ta 19	『モザイク』(田口 ランディ著 幻冬舎) 精神病院への移送途中、逃亡した14歳の少年は、濃霧に濡れるすり鉢の底の街に何を感じたのか？知覚と妄想の狭間に潜む鮮烈な世界を描く。	LSC
923.6/Se 56	『岳飛伝』(銭 彩著 中央公論新社)	LSC
933.7/D 32	『紫式部物語』(ライザ・ダルビー 光文社) 日本人の発想を超えた卓抜した大河小説	LSC

表中の右肩の記号は所蔵館を表示します。NLは名古屋図書館(本館)、LSCはライブラリーサービスセンター(センタービル図書館)、TLは豊田図書館、LLは法学文献センターの略称です。

図書館の学外開放について

大学図書館の学外開放の進展

本学図書館は1991年より学外開放（公開）を開始し、現在ではオープンカレッジや放送大学の受講者をはじめ、広く学外の皆さんに利用していただいています。図書館の学外開放は全国の大学図書館でも進んでおり、現在では国公立も含め、全体の60%近い大学で実施されています。本学は開かれた大学を標榜しており、図書館の学外開放は愛知県下の私立大学の中では最も進んでいると言えます。

大学図書館は誰のためにある？

このような状況下で一つの問題が発生しました。ライブラリーサービスセンター（センタービルの図書館＝略称LSC）を近隣の高等学校の生徒が多数利用するようになり、本学の学生が利用したい時に利用できない（座席がない）という状況が生まれたのです。この事に対して本学の学生の中から苦情が出され“誰の為の図書館かわからない”という声があがりました。

高校生の利用に時間制限を設ける

本学の図書館は大学図書館であり、公共図書館とは異なります。言うまでもなく大学図書館の第一義的な役割は学生、院生、教職員の学習・研究活動に奉仕することにあります。したがって、本学図書館としては学生の皆さんの声に応えることが急務であると考え、高校生によるライブラリーサービスセンターの利用を6月28日（水）から午後4時30分以降に制限することにしました。なお、これはライブラリーサービスセンターのみの措置であり、他の図書館は従来通りです。具体的には次のようになります。

(高校生の利用について)

- * ライブラリーサービスセンター
 - ・通常（講義期間及び試験期間）：午後4時30分以降の利用とする。
 - ・土曜日、夏季・冬季休暇中、春季休講期間については従来通り
- * 他の図書館：従来通り

学外開放のあり方について

情報化、国際化が進むなかで生涯学習社会が到来しました。このような中で大学は本来の大学の研究、教育に加えて一般市民の生涯学習にも寄与するという公共的な役割が求められています。中央大学は開かれた大学として先進的にその役割を果たしています。本学図書館もその一翼を担っています。今後も本学の学生、院生、教職員の学習・研究活動に支障をきたすことのないように留意して、学外の利用者にも気持ちよく利用していただくように努めたいと思います。

お知らせ

◎ 朝日新聞DNAの利用について

今年度より朝日新聞DNA（Digital News Archives）が利用できるようになりました。朝日新聞DNAは1984年8月以降の朝日新聞記事データベースです。図書館の端末だけでなく、研究室や事務局各部の端末から図書館ホームページを開いていただければ利用することができます。大いに活用下さい。

◎ CD-ROM専用パソコンの設置について

名古屋学舎の三つの図書館にそれぞれCD-ROM専用のパソコンを設置しました。図書館の資料としてのCD-ROMの利用に限ります。ご利用下さい。